

## 【別紙1-1】 2024年度・KESエコロジカルネットワークの取組み

### 希少植物の生息域外保全活動で栽培に取り組む植物

- \* A、B、D、E、J、Lの6種の中から希望する種を選択できます（複数可）。ただし、A、B以外の4種については、セット数（苗数）に限りがあるため、申し込み順に締め切ります。  
（2024年度はC、ヒオウギ、F、カワラナデシコ、G、アヤメ、H、ワレモコウ、I、クリンソウ、K、タムラソウ、M、イワギボウシを扱いません。）
- \* 2014～23年度に栽培を始めた種があれば、2024年度での継続栽培も可とします。
- \* 事業所内に緑化できる場所がある場合、適期にその場所に移植し栽培することも可とします。
- \* 社内・社外での啓発・広報に努めましょう。
- \* 植物の株は、すべて、京都市及びその周辺の産地に由来するものです。栽培セット（苗）の経費は、これらを含む京都ゆかりの希少植物の保全のための事業に活用しています。
- \* 各植物の「活用」の方法は、各団体と調整のうえお知らせします。野生復帰（かつての自生地への再導入）に活用させていただく場合もあります。
- \* 栽培指導協力：公益財団法人京都市都市緑化協会、一般財団法人葵プロジェクト

#### A フタバアオイ（ウマノスズクサ科 多年草）



1400年続く葵祭に欠かせない植物です。環境省・京都府のレッドデータブックに記載はありませんが、環境の変化で激減しています。ハート形の葉が特徴で、双葉の間に、小さな赤い花が下向きに目立たないように咲きます。一般財団法人「葵プロジェクト」（上賀茂神社内）などによって保全繁殖が図られています。日本固有種。『源氏物語』に登場。  
環境省レッドデータブック：記載なし  
京都府レッドデータブック：記載なし

- ◆**育て方**：木かげ、軒下などの半日陰。乾燥や強い日射を嫌います。明るい室内でも可能。
- ◆**花期**：3月～5月
- ◆**活用**：希望する事業者は、上賀茂神社に株を返納していただくと、「葵祭」で使われます。
- ◆**栽培セットの経費**：  
3株＋容器等 5,500円

#### B フジバカマ（キク科 多年草）



源氏物語にも登場する秋の七草の一つで、水田の畔、河川敷など水辺に育つ植物ですが、自生地の減少により府内ではほとんど見られなくなりました。一般に流通するのはこれとは別種です。葉・茎は香料となり、古代の人々が身に着けました。海外との渡りをする蝶アサギマダラが蜜を好み訪花することでも知られます。各地の保全団体が栽培保全に取り組んでいます。

環境省レッドデータブック：準絶滅危惧 (NT)  
京都府レッドデータブック：絶滅寸前種

- ◆**育て方**：日当たりを好みます。夏場は水を十分にやります。風通しに注意します。
- ◆**花期**：（鉢植）9月下旬～10月
- ◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。
- ◆**栽培セットの経費**：  
5株＋容器等 5,500円

**D キクタニギク (キク科 多年草)**

京都の東山を流れる菊溪(菊谷川)の河川敷に、かつて自生していたことが和名の由来です。江戸時代まで川の周辺は全国から多くの文人も訪れるキクの名所でしたが、現在は環境の変化で自生は確認できません。

明るい葉色で、晩秋に小さな明るい黄色の花を多数咲かせます。若い葉に芳香があります。

環境省レッドデータブック：準絶滅危惧 (NT)  
京都府レッドデータブック：絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりを好みます。風通しに注意します。

◆**花期**：10月下旬～11月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。(これまで京都伝統文化の森推進協議会の「キクタニギクの咲く菊溪の森づくり」に育てた株を活用しています。)

◆**栽培セットの経費**：

3株+容器等 4,070円

\*20セット限定です。

**E オミナエシ (スイカズラ科・旧オミナエシ科 多年草)**

秋の七草の一つ。日当たりの良いやや湿った山野に自生。別名「あわばな」とおり粟粒ほどの細かい花が咲きます。繊細な姿から「女郎花」と書き、近縁種オトコエシ(男郎花)と対をなします。盆花のほか、乾燥した根、茎、花は解熱などに効く生薬「敗醬」(はいしょう)となります。農林業の衰退とともに生育する里草が減っています。『源氏物語』に登場。

環境省レッドデータブック：記載なし  
京都府レッドデータブック：準絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりを好みます。夏期は乾燥に注意します。

◆**花期**：8月～10月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

1株+容器等 3,520円

\*30セット限定です。

**J ノカンゾウ (ススキノキ科またはワスレグサ科 多年草)**

7～8月にユリに似た大きな橙～赤色の一重の花を咲かせます。近縁のヤブカンゾウ(八重咲きの帰化植物)や、多くの栽培品種を含むヘメロカリス(ワスレグサ属)の仲間です。

若芽や花は山菜に、つぼみや根は薬用にされました。植えたり身につけると、憂さや人恋しさを忘れられると信じられ、「忘れ草」の名で古くから親しまれ、『源氏物語』など文芸にも数多く登場します。

環境省レッドデータブック：記載なし  
京都府レッドデータブック：絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりが良く、湿気のある土を好みます。夏場は鉢皿などで水を切らさないようにします。2年に一度くらいは植替えをします。

◆**花期**：7月～8月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

2芽(2株相当)+容器等 3,520円

\*30セット限定です。

**L ノハナショウブ (アヤメ科 多年草) (新規)**

古くから多数の品種が作出されてきたハナショウブに対する野生の原種としてノハナショウブと呼ばれます。花色(濃紫・淡紫・赤紫・白)などの変異が品種改良に利用されてきました。近縁のアヤメ、カキツバタと姿が似ていますが、花の模様や葉の脈などで区別できます。花期はアヤメ、カキツバタの少し後で、花が咲くと梅雨が真近です。

自生する湿原などが消失し、希少になっています。『源氏物語』などにも登場。

環境省レッドデータブック：記載なし  
京都府レッドデータブック：準絶滅危惧種

◆**育て方**：日当たりが良く、湿気のある土を好みます。夏場は鉢皿などで水を切らさないようにします。2～3年に一度は植替えをします。

◆**花期**：5月～6月

◆**活用**：希望する事業者はイベント等での展示をしていただきます。

◆**栽培セットの経費**：

1株+容器等 3,520円

\*20セット限定です。